

## 令和7年度 第5回足立区子ども計画審議会 会議概要

会 議 名	足立区子ども計画審議会 第5回		
事 務 局	政策経営部 子どもの貧困対策・若年者支援課		
開 催 年 月 日	令和7年8月27日（水）		
開 催 時 間	午後6時30分 ～ 午後8時30分		
開 催 場 所	足立区役所 中央館8階 庁議室		
出 席 者	<b>【委員】</b>		
	藤原 武男 会長	阿部 彩 委員	山田 哲也 委員
	末富 芳 委員	加藤 泰弘 委員	川上 重昭 委員
	高木 政代 委員	中山 勇魚 委員	小野 茜 委員
	菊地 美穂 委員	田中 優哉 委員	山崎 衛 委員
	太田 せいいち 委員	しぶや 竜一 委員	ぬかが 和子 委員
	水野 あゆみ 委員	中村 明慶 委員	勝田 実 副会長
	<b>【事務局】</b>		
	政策経営部 未来創造室長兼務 岩松 部長	総合事業調整担当部 神保 部長	子どもの貧困対策 ・若年者支援課 濱田 課長
	子どもの貧困対策係 今 係長	子どもの貧困対策係 佐々木	子どもの貧困対策係 樫村
若年者支援推進担当 加美山 係長	若年者支援推進担当 済賀	若年者支援推進担当 竹内	
関 係 所 管	地域のちから推進部 長	福祉部長	衛生部長
	教育指導部長	学校運営部長	子ども家庭部長
欠 席 者	なし		

<p>会 議 次 第</p>	<p>1 会長あいさつ  2 答申（案）最終案の確認について【資料1、2、3】  3 意見交換  4 各委員からひとこと挨拶</p>
<p>資 料</p>	<p>第5回 足立区こども計画審議会 次第  こども計画審議会 席次表  【資料1】 答申案に対するご意見の反映状況  【資料2】 足立区こども計画審議会答申（案）  【資料3】 アダチ若者会議</p>

【資料1、2、3】

1. 会長挨拶

○事務局

それでは定刻となりましたので始めさせていただきます。ただいまより第5回足立区こども計画審議会を開催します。本日はお忙しいところをご出席賜り誠にありがとうございます。私、子どもの貧困対策若年者支援課長の濱田です。どうぞよろしくお願ひいたします。次第に入る前に、本日の資料について確認させていただきます。まず皆様に事前にお送りしている資料です。答申案に対するご意見の反映状況を記載した資料1です。続いて、足立区こども計画審議会答申案が資料2です。続いて、アダチ若者会議「キミも。ミーティング～こども計画編～」と記載した資料3です。以上3点です。机上配付資料は次第と席次表です。続いて、前回の審議会と同様のご案内です。本審議会は足立区こども計画審議会条例の第8条により、会議を公開としています。会議録についてもホームページなどで公開します。ご発言をいただく際には、お手数ですがお手元のマイクのボタンを押していただきまして、マイクのランプが点灯したらご発言をいただき、終わりましたら再度ボタンを押してください。

では、ここから藤原会長に進行をお願いします。

○藤原会長

皆さん、お暑い中お集まりいただきありがとうございます。今日は最後ですね。資料を見たらちょうど1年前の今日に始まって、私も初めての経験ということで、どんなふうになるのだろうと思っていたのですが、皆さんの積極的なご協力によってここまで来られたと思います。今日はしっかりとまとめて、来週区長に答申を持っていきたいと思ひます。

○藤原会長

では、早速始めます。まずは答申最終案の確認について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局

まず資料1、2に基づき、答申の原案に対して、皆様から寄せられたご意見とその反映状況についてご説明します。次に資料3で、アダチ若者会議において、若者から直接意見をいただいたものがありますので、そちらについての説明を併せていたします。

まず資料1をご覧ください。こちらは答申案に対する委員の皆様からのご意見と、事務局がどのように答申案に反映したかを一覧にしています。多数のご意見をちょうだいしました。誠にありがとうございます。一覧では、答申に直接反映させたものと、個別の施策・事業の中で検討していくものとに分けて記載しています。また、資料1の一番左に通し番号があります。こちらは答申案本文の中に白抜きの数字を併せて記載していますが、こちらの番号と連動しています。

それでは、反映状況について、主だったものをご説明します。まず通し番号の43番で、一番最後の意見です。こちらは何名かの委員からいただいたご意見です。答申書自体が文字だけの表記になっていますので、審議会の中で図表も併せて出たものもあるということで、図表を添付するとより分かりやすくなるのではないかというご意見をいただきましたので、こちらは答申案の本文の11ページ、12ページ、13ページに三つの図を付けました。まずは11ページが基本理念で、こどもが家庭、それから社会、地域に支えられて道を進んでいくという様子を表しています。二つ目は12ページで、それが柱にどのように結び付いていくのかというところです。三つ目が13ページ、今まで皆様からご議論をいただいた中身を体系図に落とし

たものです。以上三つの図表を追加で付けました。

続いて、通し番号の1番と3番と19番です。答申の本文の1ページ目と3ページ目と6ページ目に赤字で表記を追加しています。こども基本法の理念でもある、最も重要な考え方である子ども・若者の権利を主体とすること、それを尊重すること、最善の利益を考慮すること、こちらの方を答申の中に記載すべきであるというご意見をいただいています。答申の中でも明確に示すということで、追記をさせていただいています。

続いて、通し番号の4番です。こちらが本文、原案の中でこども大綱の中では全てのこどもに対する支援というところの色合いが少し強くなってきているといったところが、審議会の中でご意見が出てきました。一方で足立区としては、より困難な層により手厚い支援をとというところを進めていくということで、文章を「一方で」、といった表記でつないでいたものですから、対峙するように感じるということで、足立区の特徴として国の考え方を踏まえつつ、子ども・若者、より困難な層により手厚い支援をというところを重点的に行なっていくということが分かるような文章に整理しました。

続いて、通し番号の11番です。答申の中で5ページ目になります。こちらが柱1について、生き抜くという言葉が、前後の説明文と比較すると表現が強すぎるのではないかといったご意見です。こちらが柱のリード文と柱の1の説明文を、生き抜く力の表現に寄せた内容に修正しています。こちら、足立区の中では、生き抜く力というのを育てていきたいといったところは、表現の方法としても維持したいということで、表現の方はこのままとさせていただいております。

続いて、通し番号の14番と15番です。こちらは答申の5ページになります。ソーシャルエコロジカルモデルの表現についてのご指摘です。答申の11ページのイラストを表現する言葉として、審議会の中で整理されていきましたの

で、そのままの表現とさせていただいています。また、注釈については追記をさせていただいたところでは。

続いて、通し番号の17番と18番です。答申の5ページになります。こちらが子ども・若者が支えられる対象であると同時に、地域の主体であり、将来の支え手にもなり得るところで、そういった考え方が必要なのではないかというご意見をちょうだいしましたので、そこを視点として追記しています。

続いて、通し番号の22番です。答申書の6ページと7ページに反映しています。こちら視点についてです。審議会でご意見をいただく中で、伝わる情報発信については、新しい切り口として、審議会でご意見をいただいたところですので、それを踏まえまして、切れ目のない支援と伝わる情報発信の順序を入れ替えています。切れ目のない支援については、今までも区の重要な考え方として実施しておりますが、これからも強く実施していくところですが、より新しい考え方のところを前の方に持ってきたという流れになります。

続いて、通し番号の27番です。答申書の6ページと8ページです。外国籍かどうかということではなくて、日本語が不自由なコミュニケーションが取りにくい子どもたちへの支援というようにご意見を受けて、日本語が不自由でコミュニケーションが取りにくい、必ずしも外国籍かどうかにかかわらずにこだわらないといった表現に修正しています。

続いて、通し番号の31番です。答申書の8ページです。こちらが審議会の中でも中高生の支援が少なくなっているというところと、居場所についても同じような傾向があるというのが議論としても出てきましたので。こちらの部分を文章として追加しました。

続いて、通し番号の39番、40番、41番、答申書の9ページです。こちらは担い手についての話です。担い手の育成に関して既存の団体や地域の住民に加えて、NPO法人、それから大学との連携も含めて新たな担い手の育成とい

う趣旨で追記しています。地域全体の幅広い連携を促すような表現としています。

こちらの意見をいただいたものを踏まえて、修正をさせていただいたところについては以上です。

続けて資料3の説明を併せてさせていただきます。今まで審議会の中でいろいろ議論をしてくださったところで、特に理念について当事者である若者がどういう印象を持つのかというところを、審議会の委員の加藤校長先生にご協力をちょうだいしまして、若者会議ということで、当事者の意見を聞いてきました。基本理念に対しては、こちらの1ページ目のところに書いてあるような印象です。足立区の理念が見えてくる、どんな計画か気になるという肯定的な意見がある一方で、書いてあることが一文として長いというご意見やパッと見た時にちょっと理解をしにくいといったところ、ウェルビーイングという言葉がそもそも初めて聞いたというご意見がありました。これは理念を直接聞いたのは最後だったのですが、それぞれウェルビーイング、生まれ育った環境に左右されないということと、共に考え共に進むというところをコンテンツに分けて、三つの切り口でそれぞれ聞いてきました。

資料後ろに若者会議の実施報告書を付けていますが、こちらの感想としては、行政のことやまちのことなどを考える機会になった、そういったところをいろいろな考えの人たちと話したい機会になったというご意見をいただきました。このような趣旨からすると、そういった考えに結び付いたこと自体でも、やって良かったなと考えています。

それぞれウェルビーイングといったことは、高校生にとってどんな時なのか、それから生まれ育った環境というのはどんなことなのか、共に考え共に進むという、共にというのは誰なのかというところを項目に分けて聞いて、最後に意見を踏まえた上で理念についてのご意見をいただいた上で、先ほどのようなご意見が出ています。今時の子どもだなと思ったのが、共に考

えの共にとは誰なんだというところで、AIというご意見も出てきました。最近の生成AIで、Chat GPTという話が出てきましたが、そういったところもいろいろ一緒に進んでいくというところの切り口の一つになってくるのかなというところが、感想としてあります。資料3は以上です。

資料3については、直接当事者のご意見ですので、今後の計画策定ですとか、あとは情報発信の際にも取り入れていくべき視点だと考えていますので、こちらの方も今後の計画策定の中に生かして行きたいと考えています。

○藤原会長

ありがとうございました。資料1で皆さんのご意見が書かれていて、具体的な施策については、今後それを実際にやっていくということなので、ここには反映されていませんが、きちんと今後やっていくということでよろしいですね。

○事務局

はい。

### 3. 意見交換

○藤原会長

では、その上でこの修正案も含めて、更にご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○山崎委員

私は答申案をいただいた時に、特に意見はなしで出させていただいたのですが、修正が上ってきたものを拝見すると、更に良くなったと思います。

ただ、読んでいて漠然ともやっとしたものがあり、それが何なのかが今日まで分からなかったのですが、高校生に聞いた時の、共にとは誰かといった時に、一番上に学校の先生と出ています。私も普段足立区内で学校の先生を心理職

としてサポートする仕事をしているのですが、今回答申案の中身を拝見したら、子どもを取り巻く大人の中に学校も教員も出てきていません。そこが引っかかるところだったのだということに気付きました。

こども基本法を基にできていますから、そもそも立て付け上、教育行政が別という枠組みだとは思いますが、こども基本法の方でも第3条に教育基本法について触れている条文があります。それと足立区の教育行政の方で、教育振興ビジョンを拝見したところ、これの前身になる子どもの貧困対策実施計画と連携ということが明記されています。要は教育行政の方の計画では、貧困対策と連携すると明記されていて、なればこちらのこども計画の方からも、その学校教育もしっかりと包括するような、教育振興ビジョンとか教育大綱の理念に則りとか、連携してとか、そういった文言がどこかに入ると、ちよつと学校教育も含めて包括的なものになるのではないかと思います。

答申案が出た後に、計画を立てていく段階でそのあたり、連携してとか、調整して、という形で持っていけるとお話を伺ったので、問題は解決されると思ったのですが、学校の先生がこの足立区のこども計画を見た時に、自分たちのことが書かれていない、と思われてもいけないかなど。もしかしたら学校を通してお子さんたちにパンフレットを配る可能性もありますよね。そう考えた時に、教育振興ビジョンや教育大綱と連携は、最終的にどこかに盛り込んだ方が厚みのある計画になるかと思いました。

#### ○藤原会長

ありがとうございます。そうですね。あまりにもデフォルトだと思ってしまっていたので、学校の先生が関わると読める場所はどこになるのでしょうか。山田先生、何かありますか。

#### ○山田委員

重要なお指摘だと思います。私の理解としてはこれから計画を立てる中で考えていくのかな

と思っています。柱の1の中には、学校教育という書き方はされていませんが、明らかに学校も含めた教育との連携も含有されているような施策が並んでいますから、もし考えられるならば明記してもいいのではないかと思います。その反面、先ほどの山崎委員の発言でもありましたように、今後計画を実際に立てて実施していく段階で、学校の関係者が読んでも、我々はここに位置付けられているなということが分かるような書き方はできるのではないかと思います。

#### ○藤原会長

柱3の地域の中に学校もあるのかなと思います。ここに学校とはっきりと文章を入れましょうか。文章としては、地域社会や学校が子ども・若者・子育て家庭を支援する体制とすればいいのでしょうか。一番最後のところも、ソーシャルエコロジカルモデルにおける子どもと家庭を更に取り込む地域・学校は行政等とすればよろしいのでしょうか。ソーシャルエコロジカルモデルの中に学校は明確に入っていますから、地域の中に含んで考えていたのですが、確かに明示した方がいいですね。そのような修正でよろしいのでしょうか。

#### ○加藤委員

ご意見ありがとうございます。私としてはあまりにも身近すぎて、当然入っているという前提だとは思いつつ話をしていたつもりでした。答申案の中にも課題は明記されていると思います。例えば9ページの柱2のところでは、具体的に入れていただいたところですが、経済的な問題の他、不登校・引きこもり・中途退学といった課題も挙げていただいています。これはもちろん学校から離れてしまった子どもも含まれているのだということだと思います。当然学校の大きな課題でもありますから、そういったところを踏まえて施策に生かしていただけるのではないかと思います。

#### ○藤原会長

ありがとうございます。そう考えていくと、幼稚園は学校に入るかもしれませんが、保育園をどうするのか問題が出てきますよね。等という表記でうまく表現しましょう。

#### ○末富委員

私に関わっているいくつかの自治体のこども計画では、学校・園という表現にしています。特に市区町村は就学前から義務教育期の責務を負いますから、その部分については例えばですが、不登校対策だったり、いじめ対策だったり、卒業後支援は非常に重要ですが、ちゃんと市区町村が関与する行政機関については、学校・園もその例外ではありませんから、書いておいた方がいいと思います。今、実態に即して言えば、足立区の場合、学校・園と、それから子ども部局や福祉部局の連携は非常に頑張っておられます。むしろとても活発だと言って良いレベルだと思います。実態に即したアクターを書いた方がいいと思います。例えば、こども家庭センター等もそうですし、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどもそうです。行政保健分野も同様だと思いますので、書き加えられるべきところに、区が所管する機関や責任を果たすべき職の人たちを書いておくというのはすごく大事だと思います。それはやっぱり一緒に今までもやってきたことへの感謝やリスペクトですし、これからも共にやっていきたいと思います。ということになりますから、できるだけ丁寧に書き加えておいた方がよろしいのではないかと思います。

#### ○藤原会長

ありがとうございます。では、柱3に学校・園と書き込むのと、それに伴って11ページのソーシャルエコロジカルモデルの一番下の行政・地域・関係機関のところにも、学校・園と明示した方がいいでしょうか。ではそういうことで、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。青井高校の生徒さんの理念に対するコメントで、すごく勉強になっ

たというか、いい意見をたくさんいただいたのですが、その中で、順番を入れ替えるという具体的な案を言ってくださった生徒がいました。生まれ育った環境に左右されない未来に向かって、子ども・若者のウェルビーイングを共に考え、ともに進むアダチをつくっていく、と書いてくださっているのですが、この意見についてはどうでしょうか。現状は、子ども・若者のウェルビーイングを共に考え、生まれ育った環境に左右されない未来に向かって、ともに進むアダチをつくっていくとなっております。

#### ○阿部委員

入れ替えた方がいいと思います。

#### ○事務局

順番を入れ替えるという意見もいただいたところではあるのですが、そもそも一文の中に意味が入りすぎているという指摘もありますので、そこも含めて検討したいと思います。いただいた理念は、答申書の中にも記載していますが、そちらは順番を入れ替えたものに替えますか。

#### ○藤原会長

そうですね。この理念は足立区の区民、あるいは特に子ども・若者に浸透させていくというものですよね。であれば、読みやすい方がいいですよ。

#### ○事務局

では答申書の中の案は、今のご意見を踏まえて入れ替えます。

#### ○藤原会長

他にいかがでしょうか。

#### ○小野委員

2点あります。1点目は、結構この案は子どもたちがどうあるべきかという押し付けがなく、本当に自分の思うように自分らしい選択肢

というふうな尊重があって、すごくいいなと思っていました。今回の修正案で付け足された箇所、5ページの下の部分なのですが、子ども・若者の成長につながり、やがて地域社会の次の支え手になることを望むと書いてありますが、地域社会の支え手になることを望んでいたかなというのが私には分からないのです。子どもは社会のためになるために生まれてきたわけではないため、ここが気になりました。

2点目。通し番号の30を提出し、8ページの柱1で修正をしていただきましたが、そういう意味ではなかったです。お金持ちな家庭でも教育虐待があったり、一見すごく恵まれたような理解のあるお母さんの下で育っていても、お子さんにとってはそれが過ごしにくかったりと、周りから見たらいい家庭じゃないかみたいなどころでも、そんなことがあったりしますから、ここに書いてある貧困、トラウマや虐待というのは、みんなが大変なことだと思うことなのですが、子どもはちょっと偏差値が下のクラスに入ったから気が合わないとか、ものすごく大きな問題になったりするのですね。そういう家庭だったり、子どもを取り巻く環境だったり、私たちが分かっていないことで困っているかもしれないという前提が欲しいなという思いで指摘をしたのですが、うまく書けていなかったようで恐縮です。

#### ○藤原会長

重要なご指摘だと思います。虐待・トラウマ・貧困といった要因も大事だということですね。表現がなかなか難しいですが、一見問題がないように見える環境であっても、息苦しさを感じている子どもはいるのだと。そこを取り残さず気を配るといえるのか、そんな表現が欲しいということですね。実は子どもが息苦しさを感じているというのは、いろいろなところで分かっているから、明らかな虐待とかはなくても、それは非常に重要だと思います。

もう一つですね。5ページの地域社会の次の支え手となることを望むのところは、どうです

かね。望む人の気持ちも分かるし、望まれることのプレッシャーみたいなものを感じる若者の気持ちも分かるし。なかなか難しいですね。

#### ○中山委員

個人的に気になったのが、意見表明みたいなものがよくあると思うのですが、意見を聞いて終わりみたいなことってよくあるよなって思っています。実際にどのぐらい子どもたちが参画できるのかなとか、その先に子どもたちが実際に社会とか地域に影響力を行使できるのか。全体を見ていただいた時に、こんな家庭の子もいるので、支えるとか見守るといえることは必要だと思うのですが。一方で子どもたちは権利の主体でもあるし、すごく力を持っていると思うので、子どもたち自身が社会に影響を与えてほしいな、良くしていく一員であってほしいなと思っていました。そこと今の話で思ったのは、支えられる対象、そして次は担い手、支え手になりなさいみたいな感じよりは、一人ひとりが地域とか社会に参加して、自分の意見を言えたり、社会と一緒に作っていく一員であることなのかと思います。やらなければいけないとか、守らないといけないというよりは、一人ひとりが参加していく、将来足立区に住んでくれるかどうか分かりませんが、社会の一員になっていく。そのために子どものうちから意見を聞いて、参画してもらい、子どもたちが足立区に影響を及ぼしていけるようにしていくことが大事だと思っていました。

#### ○藤原会長

アクターという言葉でご意見をいただいている、その言葉を使えるとスッと行けるのですが、支え手となると支える、支えられるになるので、何ですかね。担い手とか一員とか、そんなところでしょうか。やがてじゃなくて、今が地域社会の一員というか、担い手・アクターだという感じの方がいいですね。

#### ○小野委員

今お二人の話を聞いていて、大人の責任としては、支えたいと思ってもらえるような社会を作るのが私たちの責任なのではないかと思いました。なので、支えたいと思ってもらいたいなぐらいだったら言ってもいい気がしています。

○藤原会長

ありがとうございます。

○山田委員

5 ページの下。やがて地域社会、の地域を取って、支え手を参加者とかにすると、今のやりとりのところを満たせる表現になるのかなと思いました。別に成人年齢に達していなくても、やがて社会の次の参加者という書き方もあり得るかなと思いました。

○藤原会長

ありがとうございます。

○ぬかが委員

この17番、18番をずっと見ていたのですが、確かにここで挙げられていた意見と、答申案に出た文脈が、ニュアンスが変わってきているなと思いました。先ほど会長が言われたように、17、18に立ち返り、この意見で行くと、今現在も子どもたちは社会に参画する大切なアクターで、それが将来も含めてそうだよと。一人ひとりが権利の主体で、主役であり、支えられることもあれば、支えることもある存在だよといった意味合いが、この17には込められているなと思いました。やはりこの文章に近いような、この17、18の意見を受けて直されたのであれば、この意見で出された表現に近いものに寄せていただきたいと思いました。

○藤原会長

ありがとうございます。これはいろいろな意見がありそうですね。私個人的には、何かやがてとか、次っていつなのかと思ってしまうので、成長につながりと言っているの、未来のこと

を言っているのだなと思うのですが、社会の参加者となっていくことを望むが一番しっくりくると感じます。

つまり、なお子ども・若者が支えられる存在であると同時に、地域社会の主体でもある。また、地域の一員としての意見表明や社会参画などの経験の一つひとつが、子ども・若者の成長につながり、社会の参加者……。おかしいですね。これは難しいですね。

○阿部委員

1行目のところで首をかしげているのではないかなと思うのですが。それというのは、支えられる存在というものが主体と違うと捉えていて、支えられている人は地域の主体ではないという意味で書いていると思うんですね。なので、ここでも既に支えられる存在を微少なものというか、そういうような形にしているの、子ども・若者は地域社会の主体でいいと思います。それで意見表明や社会参画なども主体の一つで、役割というか、できること、権利と言ってもいいかもしれないですね。なので、地域社会の主体であり、地域の一員としての意見表明、社会参画などを享受することができる、といった言い方でもいいのかなと思います。次の担い手になるかどうかは、別に担い手にならなくてもいいじゃないかと。税金を払わなくてもいいじゃないかなと思うので、それを私たちが望んでいると言うのはなにかちょっとあれなので。そこは取ってもいい気がします。

あとは成長につながりというもの、子ども・若者会議で発言するようなことが成長だというニュアンスがあるのですが、そんなところで発言したくないよという若者もいっぱいいるし、できない子だっているのに、これが若者のあるべき成長の姿というニュアンスが出る気がします。成長という言葉もなくてもいいかなと思うぐらいです。

○藤原会長

そうですね。

○阿部委員

やはり権利という言葉を使ってもいいと思います。意見表明・社会参画の権利と、子ども権利条約というのは、やらないといけないということではなくて、やりたければやれますよということなので。

○藤原会長

そうすると、この上にある柱3の下で、区民が支えていって、この支え手を受けている支えられる存在なのだと思うのですが、あえて書かなくても確かにいいかなと思います。なお、子ども・若者は、地域社会の主体でもある。また、地域の一員としての意見表明や、社会参画などの経験の一つひとつが、成長と柱3で記載しています。

○阿部委員

成長というのがどういう形の成長かというのは言っていないのですが、地域の一員として意見表明、社会参加するそういう支え手になることが成長というニュアンスになってしまいますね。

○藤原会長

そうですね。子ども・若者は地域社会の主体であり、地域の一員としての意見表明や、社会参画などの権利を有しており、やがて地域社会の参加者となっていかもしいです。

○勝田副会長

支え合っていくというのは、その先子ども・若者は地域社会の主体、一員であると言っているので、地域の一員として意見表明、社会参画の経験の一つひとつが子ども・若者の成長につながっていくことを望む、ではどうでしょうか。一員として意見表明やそうやって意見表明や社会参画の経験が、子どもの成長につながるということを目指しているように簡単にした方が分かりやすいのかなという気がしました。

なお、子ども・若者は地域社会の一員でもあ

る。地域の一員として意見表明や社会参画などの経験の一つひとつが、子ども・若者の成長につながっていくことを望む、ではどうでしょうか。地域社会の一員として最初認めているので。

○藤原会長

正当につながっていくことを望みますよね。つながってほしい、成長してほしい、それがもう次の地域社会の支え手というのはなしでいいのですね。

○勝田副会長

地域社会の一員であるので、地域社会の一員として更なる成長を望む、その過程として意見表明、社会参画の経験などを積むことによりというニュアンスだと変わってしまいますか。

○小野委員

消した方がいいと思います。柱3というのは、私たち行政の責任として支えるというのが趣旨だと思うので。子どもの成長の姿を定義する必要はないと思います。子どもがどう成長するかは私たちが書かなくていい部分なため、削除でいいと思います。私たちがやるべきことは、相互にいろいろな人が支え合って、協力することだと、子どもが思う成長って、5年後、10年後のこどもが何を成長した姿だと思うかは、私たちに想像が付かないこともあると思うので。どんな方向に成長したいかも含めて、それを支えていくのが足立区ということではなかったのかなと思ったのですがいかがですか。

○中山委員

成長のために意見表明するわけではないなと思ったので、意見表明とか参画とか、子どもが意見を行使することは子どもたちの権利であって、当たり前にあるべきものであって、成長するかどうかとはまた違うと思います。

○藤原会長

次の視点のところで、若者の意見表明と参画

のところはがっちり書いてあるので、そこだけを付け加えるならば、なくてもいいですね。

○山崎委員

柱3が地域全体で子どもの成長を支えるということなので、地域全体がどのように子どもを支えていくのかというポイントなんですよね。子どもを主体に置くとすると、柱1の1行目、2行目あたりで、心と体の健やかな成長支援を基礎とし、地域社会の主体である子ども・若者が自由に意見を表明するなど、そこに一言だけ加えるだけでも、地域の主体に子どもは含まれるというニュアンスが入ってくると思いました。次にめくったところの視点に、意見表明と参画機会とはっきり書いてあるので、文言がうまくまとまらないようであれば、取ってもいいのかなと思います。

○藤原会長

柱1に加えるということですか。

○山田委員

柱3がどうしても地域が子どもを支えるというニュアンスが強いのであれば、柱1のところの1行目と2行目の心と体の健やかな成長支援を基礎とし、地域の主体である子ども・若者が自由に意見を表明し、と一言だけ加えると、子どもが主体なのだというのがはっきりすると思いました。次のページに意見表明とあるので、あえて入れなくてもいいと思います。

○藤原会長

地域の主体である子どもというのは引っかけられますね。地域のためにいるわけじゃなく、存在自体が重要なので。

○小野委員

先ほど中山委員がおっしゃっていた、子どもが意見を発するのは、とても普通のことというか、権利というか、行使はしなくてもいいけれども、できた方がいいことだということがあり

ました。柱1の2行目で、子どもが意見を表明でき、に修正する必要があるのではないかと思います。できる環境を作るのが私たちの責任ですから。

○藤原会長

ここは修正するというのでよろしいですね。柱3の最後はどうでしょうか。これだけでもめまらない方がいいかなという気がしますが、意図していることは、他で読めるような気もします。今いる足立の子たちのための計画であって、未来の足立のための計画ではない気がします。結局、今の足立のこどもたちを大事にしていたら、未来の足立は良くなるという前提に立っていると思います。それをここのためにというニュアンスになると、多分本当に大事なことを取りこぼしてしまうという懸念がありますよね。こどもまんなか社会というのは、今いる子どもたちを大事にするという趣旨だと思うので、ない方がいいかもしれません。

○加藤委員

柱3の2行目に、区民が支え手としての役割を意識することは、とありますから、最終的に子どもたちも成長して支え手となることを望むという表現の仕方になっているのだと思います。ただし、あくまでも柱3は、子どもの成長を支えるということで、支えるために私たちはどうするのかということですから、最後に支え手となることを望むと書いてしまうと、それが主であるという誤解を受けかねないので、私もない方がいいと思いました。

○藤原会長

ではその方向でやりましょう。  
他にいかがでしょうか。

○田中委員

それぞれの施策とか柱が達成されているのかをどのように進捗管理するのでしょうか。また、この計画の中にマイルストーンというか、いつ

までにといったものは入ってこないのでしょうか。明確な目標みたいなものがないと、やっている感だけがあって、実際にこの柱が達成されているのかが見えてこない気がします。

○藤原会長

素晴らしいご意見だと思います。

○事務局

答申の中には、PDCAは記載していませんが、計画の中では推進体制ということで、PDCAサイクルについても記載します。それぞれの施策についての成果指標を設定して、それが達成されたかどうかは進捗管理をするということで、計画の進捗は追っていきます。

○藤原会長

なので、具体的なところはその後足立区の方で進めていくものがこれにくっついてくるということですね。そこに公募委員の皆さんでもいいですし、他の足立の若者でもいいのですが、皆さんがそれをチェックするような、意見が言えるような体制が望ましいですね。そこまで視点1の中に読み込めるのかが気になります。

○事務局

評価のところについては、どのように進捗管理をしていくのかは、今庁内で検討中です。子ども基本法の中にも評価についても当事者の参画が記載されています。その辺は配慮した形で検討を進めます。

○藤原会長

菊地委員、何かありますか。

○菊地委員

私は、皆さんの意見から変わったことだったり、私自身が伝えたことがすごく反映されていると思っていました。改めて修正案を見た時に、私自身が気付いていないところまで、言葉の一つひとつであったり、接続詞だったり、先ほど

の望むの部分も、私自身確かにと思いました。私は別に望まれてもいいタイプなのですが、人によっては強要だと感じることもかもしれないなと思いました。一人ひとりの気持ちに立って議論が進んでいるので素敵だなと思いました。

○藤原会長

とりあえず一旦今のご意見を元に微修正をするという前提で、これはOKということによろしいですね。

#### 4. 各委員からひとこと挨拶

○藤原会長

では全体を通しての感想をいただきたいと思っています。

○阿部委員

とても有意義な時間を過ごしました。特に公募委員の方々も含めて、いろいろな議員の方々とか、私も今まで足立区の子どもの会議に長年関わってきましたが、本当に活発に意見を言ってくくださるのがすごく頼もしいなと思いました。逆に言えば、足立区がそれだけそういったことを誰もが言える、意見表明をする場所がある、そんなカルチャーが作られているのかなと思いました。他の自治体の構成委員や大学の委員に選ばれて、いかにも先生が事前に添削したみたいなコメントを読み上げる会議にいっぱい出たので、今回は本当にいい経験をさせてもらいました。ありがとうございました。

○末富委員

まず答申案の取りまとめ、皆さんありがとうございます。私自身は足立区らしさが出た答申案だと思っています。特に最初の方で結構議論になっていたことですが、生まれ育った環境に左右されないというキーワードを大事にされているなと感じています。足立区は子どもの貧困対策にすごく真剣に取り組んできたし、これからもそうなのだと思います。だけど、全ての子

ども・若者と共に考え共に進むという、新しい足立にもなっていくのだというので、そんな真剣な議論が展開されたことが素晴らしいし、これが足立区らしいなということを私自身改めて今日実感しました。併せて若者委員の皆さんに合わせて、6時半開始というのは、足立区の皆さんの働き方改革は大丈夫なのかと心配になりました。ただ、皆さん方と一緒ができる、特に議員が子ども計画審議会にいらっしゃるのはあまり見ない光景なんですね。我が国の民主主義ってこういう形でも実現できるのだなと。しかも子ども・若者のために一緒にこういう形で実現ができるという意味では、すごくいい会議だなと思って参加していました。ここから更に計画がPDCAで作り込まれていく時にこそ、共に考え共に進むということを引き続きお願いしたいと思います。

#### ○山田委員

今日の会議もそうですが、参加された委員の皆さんの意見が交わされる中で、より良いものに答申案が練り上げられていくプロセスを毎回の会議で感じていて、非常に参加するのが楽しみでした。子どもについて何か計画を立てると、油断するとついついパターンリズムが作用する恐れがあるようにも思います。そこにちゃんと歯止めを掛けて、成長を前提とすることの是非だとか、決まった形に子どもが変わることを望んでしまうことが窮屈さにつながるということで、毎回の議論の中で委員の皆さんが意見を寄せてくださっていて、非常にスタート地点として良いものができたと思います。ここでも再確認された子どもの権利ですが、特に子どもが意見を表明して、社会に参画していく権利をどう保障するのかというのは、計画を立てて実際に実行する時に、より一層問われることになると思います。今回の議論の中でも、なかなか情報が届かない人とか、あるいは一見大丈夫そうに見えるけれども、非常にしんどい人たちに対する想像力が十分に発揮されたと思いますが、それを超える現実の厳しさもあると思うので、ぜ

ひこの計画がそういう今までリーチができなかった人たちを支えるような計画として、実際に展開されることを期待しています。

#### ○加藤委員

まさか言葉の入れ替えとはいえ、うちの生徒の意見が反映されるとは思わず、非常に驚きました。9月1日は始業式ですが、その話をしようと思いました。足立区には都立学校が高校が9校、特別支援学校が2校あります。都立の校長を委員に選任する前提ではなかったと思いますが、小中学校の校長がいない中、自分でいいのかなと思いついてでしたが、本当に声を掛けていただいて感謝しています。この審議会での立場で話せることはできるだけお伝えしたつもりです。都立高校の現状と課題ですね。それは小中学校にもつながると思うのですが、経済的に困っている生徒であったり、居場所がなくて孤立している生徒であったり、外国にルーツがあつて日本語を母語としないためにコミュニケーションが不自由で不利益を被っている生徒が大勢います。そんな生徒たちを少しでも支援できればという思いを強く持って、知る限りのことを伝えたいつもりです。

一方、肩書きが有識者という立場になっていますが、皆さんのご意見を聞いて、すごく感心することが多くて、学校の経営にも生かせるなと思えることが多々ありました。ありきたりな表現ですが、大変勉強になりました。

都立高校には学校運営連絡協議会という会があつて、小中学校は開かれた学校づくり協議会だったか、そんな外部の方を招いて学校経営の意見をいただくという組織があります。この会を通して非常にいい意見をおっしゃるなと思って、菊地さんに声を掛けさせていただきました。本校始まって以来の学生の委員ということで本校に来ていただいて、意見を言っていたいでいます。本校の教員も、最初は大学生が委員にという感じだったのですが、一度出ていただいた後は、すごく感心してまして、本当に感謝しています。

また同じ公募委員の小野さんから声を掛けていただいて、外国にルーツのある生徒のインタビューに応じました。そういった生徒と話をする中で、生徒の1人が、将来に向けて小野さんから話を聞きたいと言ってくれました。それでまたわざわざ学校に来ていただいて、その生徒と話をしてもらいました。使えるものは何でも使うみたいな感じですが、このご縁を本当に大切にしたいなと思っています。この後の会もあるようですが、お役に立つようなことがあれば、また声を掛けていただきたいと思っています。ありがとうございました。

#### ○川上委員

5回のうち2回欠席ということで、一番大事な時に来られなくて本当に申し訳ございませんでした。今年はコロナがあったせいで、6年ぶりの地域のお祭りがありません。それでもって6年経つとすっかりと忘れて落ちているところがあるんですね。そういう意味では、やはり若い人にこれからも地域を担ってほしいなと思っています。答申の地域社会の次の担い手は削除されるようですが、文面ではそうですが、大人の気持ちとしてはやはり若い人にこの街を盛り上げてほしいなと思います。この中では一番年を取っていると思い皆さんのために少しでも役に立てればと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

#### ○高木委員

1年前、ちょうど今日、8月27日に初めて皆さんとお会いした時に、名簿の私の職名がソーシャルワークアドバイザーだったんですね。私、毎年発令書をいただいています。今年はスクールソーシャルワークアドバイザーとなりました。やはり私の基盤はスクールソーシャルワークということで、最初はスクールがなぜ付かないのだろうと思っていたのですが、その方が分かりやすいことに足立区にも分かっていただけなということで、こういった機会に皆さんにご紹介ができて良かったなと思っています。

ちょうど1年前に私は足立区の会計年度任用職員ということで、職員の1人としてここに参加しているものですから、1年前には後ろに並んでいる人の前で、私は冷や汗をかいているというお話をしました。1年経って5回目ともなると、今日は本当に最終回ということで、何か寂しいようなそんな感じで、ほっこりしているところです。

私がここにいていいのだろうかといつも思いながら、皆さんの素晴らしいご意見を参考にしています。今は世の中にスクールソーシャルワーカーという言葉がだいぶ周知されてきましたが、私が初めてこの仕事に就いた時は、別の自治体でたった1人で立ち上げてきましたので、スクールソーシャルワークという言葉が周知されていなくて、ネットで検索してもSSW=シンガーソングライターしか出てこなかった時代だったのですが、知られてきたなということを実感しています。この答申の中でも地域のスクールソーシャルワーカーとか、保健師ということで記載がされていることがとても私自身うれしく思っています。

そしてまた、足立の若者会議等でも高校生のご意見がたくさん出ていて、子どもたちが中身が分かりづらいとか、もっと短くてもいいのではないとか、はっきりと意見を言ってくれて、私たちもそういう気付きが大事だなと思いました。端的にした方がいいなんていうところも、非常に印象深かったです。いかに分かりやすく伝えるのが大事なんだなと思いました。

こういった場で皆様に出会えたことに対しても感謝しています。そして、将来的に私もいろいろな皆様に認めていただけるようなソーシャルワーカーになっていきたいということで、もうちょっと頑張ってみようと思います。どうもありがとうございました。

#### ○中山委員

1年間ありがとうございました。毎回様々な意見が出る中で、取りまとめが大変だったのでないかと思います。第1回からこのビジョン

でいいのかみたいなことで、終了しないみたいな感じだったので、先行きが不安になったと思います。1年経って各委員のこれまでの経験だったり考えが凝縮されたような答申になっていたと思っています。ありがとうございます。

やはり子どもたちの意見を聞くテーブルに参画してもらっただけではなくて、実際に子どもたちが決めていく。それが社会に反映されていく。影響力を行使していくというところまで行ってほしいなと思っています。自分たちの意見が足立区のビジョンを変えたのだとなると、自分たちで社会を変えられるのだと、子どもたち自身が自信を持つことにつながりますし、そういった子どもが増えていくことが結果的には地域社会をより良くしてくれる人が増えるのではないかなと思っています。我々は遊びこそ最高の学びと言っているのですが、ただし学びを求めると遊びではなくなるという話をしています。参画もそうではないかなと思います。まずは子どもたちが地域社会に参画していく。影響力を行使していく。それがやがて良き市民を育てていくのであって、市民になるためとか、担い手になることを先に求めてしまうと、子どもたちとしてはやらされている感とか、意見を聞かれたけど全然反映されないなど、それって逆に意見を聞かれないよりも絶望が深まるのではないかなと思います。ぜひこれからは計画に落とし込んで実施される場合には、子どもたちの意見や考えが足立区に影響を及ぼしていくような、そういった区になってほしいなと思います。ありがとうございます。

#### ○中村委員

長時間のご議論ありがとうございます。様々な意見を藤原会長がまとめていただいて、最終的な素晴らしい答申案ができたと思います。初回到区長からも足立区らしい子ども計画を作りたいという思いがあり、それが実現できたものではないかなと感じています。今日特に議論になった地域社会の次なる支え手といった子どもたちに向けたメッセージですが、私も役柄いろ

いろなところで話をする時に、行政は割とこれを言いがちです。子どもたちにとっては重たいところもあるかと思いますが、重たい大きな支え手・担い手という意味だけではなくて、身近な人たちの何気ない支え手になっていることも含めて、子どもたちが社会のいろいろな人たちに関わることは、とても意味があることだなというぐらいのメッセージとしては、残してほしいなという思いもちょっとあります。最終的に削られてしまいましたが、ただそういう思いは、言葉にならないもの、行間も含めて思いが残していけるといいなと感じました。勉強になりました。ありがとうございます。

#### ○勝田副会長

前回から長谷川副区長の後任ということで前の方に座っています。副会長という立場であったのですが、ほぼ藤原会長にお任せしてしまって申し訳ございませんでした。これだけ多くの方に長時間掛けて議論をしていただいて、大変ありがたいなと感じています。今教育長からもあったように、支え手とか地域の一員とさせていただくところは、どうしても行政として求めてしまいがちなのですが、そこは記載されていなくても、これだけ多くの人たちが子ども・若者を支えるためにいろいろと議論を尽くして、これからまたいろいろな各団体の方々が、子ども・若者を支えていくことを考えているんだよということは、あなたたちは1人じゃなくて、いろいろな人たちがあなたたちを支えようとしているんだよということだけは、若者たちにきちんとメッセージとして伝えていきたいと考えています。長時間ご協議をいただきありがとうございました。

#### ○水野委員

私も子育て当事者ということで、議員の中でこちらの審議会に押し出していただきました。私も子どもの意見というのが大事だというのは、若者会議の資料を見て思ったのですが、子どもたちのウェルビーイングといたら、部活をや

っている時とか、ご飯を食べている時、お風呂に入っている時とか、バイトをして進学費用が貯まった時とか、そういったことが書かれていて、本当に率直な意見で感動したというか、こういったことを保証していくことが大事なのだなと思いました。もっと高い目標と言うよりは、普通の生活を子どもたちに保証していくところが大事なのだなというのを改めて感じました。子ども食堂にも携わっていますが、全国でも子ども食堂は1万か所ということで報道もありますが、区立中学校の数を超えているということで、そういった地域の方々がボランティアで子どもたちを支えようという社会の風潮になってきたんだなということを、改めて思っているところです。そういったところを更に区としても支援をして、子どもたちを支えていく仕組みを、更に子ども食堂に限らず、新たな仕組みとしても作っていきたいと思います。今回は区議会議員ということで、普段私たちは区に対して様々な意見を言ったり、提案ができる立場なので、この審議会ではあまりしゃべらずに、公募委員の皆様方のご意見をたくさんちょうだいしましたので、今後具体策としてしっかりと提案、また実現ができるように頑張っていきたいと思えます。ありがとうございました。

#### ○ぬかが委員

実は私、2年ぐらい前から、全国の若者のまちづくりサミットというのが行なわれていて、それに参加しています。宮本みち子先生が提唱してスタートしました。そこでは高校生とか中学生とかが、本当にやりたいことをやって、だんだん盛り上がっていくと、まちのおじさん・おばさんたちと一緒に何かをやっちゃうみたいなことなど、やりたいことを本当に自己実現できるという世界を、先進事例を学んできていてすごくいいなと思っていたのですが。このこども計画の議論と、そしてこの審議会に参加している方々の話を聞いて、ああ、足立もどんどん変わってきているなど、本当に子どもの意見を大事に、子どもの声を具現化していくというの

が根付いてきているのだなということを、本当に多くの皆さん、審議会に参加している先生や公募委員の皆さんのご意見で、逆に学んだというか、足立で良かったなと思えるような審議会でした。

私自身は各種審議会、基本計画とか、環境基本計画とか、今だと男女共同参画とか、いくつかの重要な計画づくりの審議会委員もずっと務めてきましたが、とにかく夕方6時半からというのもこれが最初ですし、公募委員の若い方が1人とかはあったのですが、4人というのはすごいなと思っていて、やっぱりこれがこれからの足立区の審議会、このこども計画だけにかかわらず、他の審議会でもそういう形で、若い人の声とかいろいろな人の声が反映できるような計画づくりができるといいなと思いました。

携わった審議会の中で、環境基本計画と男女共同参画計画というのは、進捗管理も審議会の委員がずっとやらせていただいています。つまり、定期的に審議会をやって、進捗管理をしているので、ぜひそういったことも答申をしてこれからのいい計画ができるだろうという中では望みたいと思います。どうもありがとうございました。

#### ○しぶや委員

1年間ありがとうございました。私が印象的だったのは、第1回からそうだったのですが、捉え方のところでした。この文言一つひとつの丁寧さであったり、委員の皆様はプロフェッショナルな方々、そして公募委員の経験を生かした声、またリアルなそのまま感じた声を、一人ひとりの捉え方一つで、また子どもたちの捉え方にもつながっていくのだなということを改めて実感して勉強になりました。またもう一つ、今日の青井高校の「キミも。」というところで、先ほど加藤委員がおっしゃっていましたが、君も声を上げることができる足立の一員というフレーズが本当に素敵ですね、こういった子どもだけではなくて、もちろん子どもが主体的に考えていくというところ。また、そして子ども

が中心としてあくまで考えていくところが、この計画の論点かとは思ったのですが、子どもと若者というところの論点で、こういった若者一人ひとりの声が、こういった計画に、足立区の大々的なこども計画に反映しているのだよという声が、若者の一人ひとりに届くことがこれからのこども計画だけではなくて、様々な計画、審議会につながっていくのかなと改めて実感した次第です。本当に1年間大変勉強になりました。ありがとうございました。

#### ○太田委員

期間としては1年間、回数としては5回、毎回毎回ここに参加する度に新たな気づきをたくさんいただける大切な場となりました。今気づきと申し上げましたが、例えばこどもまんなか社会と言葉で言うのは簡単ですが、その裏には一人ひとりの子どもの顔があり、その一人ひとりの様々な子どもが置かれた状況がある。そういったことをこの場で毎回気付かされたというのが実感です。今回答申案をまとめて、これが足立区のこども計画のスタートとなってくると思います。今後これをどう中身を進めていくのか、具体策を入れて、計画を進めて進捗管理をしていく中で、しっかりこれまでに気付かされた様々な子どもの顔を思い浮かべながら、想像力を駆使して本当に1人ももれなく足立区の子どもたちがこどもまんなか社会、足立区に生まれて良かったと思える社会の実現に向かっていけるように、この計画を大事に育てていきたいし、しっかりと区議会議員として仕事をしていきたいと改めて決意しました。本当にありがとうございました。

#### ○山崎委員

1年間ありがとうございました。取りまとめはかなり議論もあって大変だったと思います。素敵な答申案になったのではないかと思います。一区民として参加させていただきまして、他の公募委員とは一世代以上私だけ年が上ですので、一体何をここでお話をしたらいいのだろうと思

いながら参加していました。ただ長年足立区に住んできて、足立区役所に入ってこのようにお話をする機会は全くなかったですね。そういった意味で、本当に区民として今回参加させていただいて、台風が来た時とかでも区役所から通知が来ると、区役所の人顔が思い描けるようになるぐらい、ちょっと区にもものすごく親近感が持てました。参画するのはすごく大事なのだなと身をもって体験させていただきました。本当に貴重な経験をさせていただきまして、公募委員の立場で拙い意見も多かったかとは思いますが、うまく拾っていただいてまとめていただいてありがとうございました。

#### ○田中委員

普段あまり会社にいると接することがないいろいろな属性の方々と様々な意見が聞けて、すごく楽しかったなというのが率直な感想です。先ほど山崎さんがおっしゃっていましたが、住民参加というところを今回の審議会を通じて、当事者としても参加することはすごく大事だなと思いました。行政と我々区民の関係性は、結局行政サービスを受ける側というか、サービスの出し手と受け手みたいな感覚になってしまいがちで、保育関係の仕事をしているのですが、保育所に通う親とかも保育料が無料になると、どうしてもサービスとして受け取ってしまって、自分たちが主体であるという感覚が薄れていくという話を園長から聞いている中で、こういった住民参加をすると今までは消費者、行政サービスを受ける側みたいなマインドだったのですが、自分たちも主体として足立区のために何かできるのだろうみたいなことをしっかりと考えられたというのが、そこが今回の理念にもあるともにといいところなのかなと思いました。今後も足立区のために何かできたらなと思っています。

私、ワーキングペアレンツ、子育て世代として参加もさせていただいて、そういった立場で発言をさせていただいたと思います。最近会社の中でもワーキングペアレンツの活動に参加し

ていく中で、会社の中だとどうしても利益追求が先行して、結婚したり子どもを持っていることって結局自己責任だよねと片付けられてしまっていて、働けない時間があることも自己責任だから何とかしろと冷たい言い方をされることも多かったのですが、しっかりといろいろな立場があるということを区の中とか、そういったところでもいろいろな人が知ることで、少しずつ冷たい形で切り離すのではなくて、相互に支え合えるような社会ができていったらいいのかなというところで、今回のこども計画もより良いものになったらなと思っています。いい機会を与えていただきありがとうございます。

#### ○菊地委員

まず1年間本当にありがとうございました。私はまずこの公募委員に採用していただいてから、この部屋に入った瞬間に、大人の方がいっぱいいて、すごく緊張するなと感じました。それは正直今日もあまり変わっていないのですが、でも私が発言している時の皆さんの視線だったり、目線だったり表情がすごく温かくて、私の意見をしっかりと聞いてくれようとしているんだなというのをすごく感じました。今回この委員をさせていただいたことで、自分の家に届く区報だったり、いろいろなビラやポスターもしっかりと自分の目で見えるようになりました。その中で一つ綾瀬で行なわれていた未来を考えるイベントに応募したのですが、その時は応募者多数だったら抽選でみたいな形で書いてあって、私はてっきり行けるものだと思っていたら、外れてしまいました。そういうふうに未来を考えるような子どもというか、その時は25歳までだったのですが、若者世代がすごくいっぱいいるということがうれしくて、そこには参加できなかったのですが、こういう形で今回採用していただいてすごく私目線の意見を聞きたいと言っていたことがうれしかったですし、こういう形として残るようなものに参加できてすごく良かったなと思いました。ありがとうございました。

#### ○小野委員

私は率直にものすごく楽しかったです。ただの区民なので本当に付度なしでいろいろなことを言わせていただいてありがとうございます。自治体の資料とか、最初にこんな分厚いやつを見ながら、やってみても、そんなに大きくないかなとか、お金の規模って限られているんだな、難しいんだなとか思ったりしました。あとは参加していて、すごくいろいろな機会が発言させていただいてうれしいのですが、自分の中で結局口ばかりだなというか、何かここに座って偉そうなことを言っているだけで、結局何もできていないなという違和感がありました。そういう実施量と感覚があいまって、私7月末に会社を退職しまして、ちょっと会社を作って、今度もいろいろなことをやっていこうとは思っているのですが、その一環で青井高校にも行かせていただいて、本当に困っている人たちのために自分が本当にやりたい、何かをやりたいという思いを本当に持つことになりました。もちろんこれだけで辞めたとは言えませんが、本当に大きなきっかけになりました。

さっき担い手の話がありましたが、私はこの中で足立区の初心者の方だと思うのですが、でも、私はすごく好き勝手させてもらったというか、足立区の困っている子たちのために何かしたいって本気で思っています。なので、ほったらかして好きにさせていただいたおかげで、そう思えたというか、足立区だけでなく、本当にいろいろな人のためになりたいと思ったので、本当に好き勝手、ちゃんと応援してくれている人が私の周りにいっぱいいたと思うので、心配しなくても大丈夫だと思いますというのを思っています。

応募した時私は30歳で、若手枠は2名でした。もしかして30歳以上枠はちょっと激戦区かも思っていて、すごくドキドキだったのですが、こんな貴重な機会に選んでくださった、面接してくださった方もこの場にいらっしゃって、本当にこんな機会に参加させていただいて、皆さんがうらやましいなと思いました。こんな

楽しいことを仕事にしているのですかという感じでうらやましく思いました。なので、今回は採用していただいて、またいろいろな意見を交わさせていただいて本当にありがとうございました。

#### ○藤原会長

私も皆さんに心から感謝です。事務局の皆さんには、最初のコンセプト作りから委員の選定まで本当に準備をいただいたと思います。ありがとうございます。研究の中でも住民とか対象者と一緒に作っていくということをずっと言われていて、ちゃんとやれている人はほとんどいません。今回そういう意味で参加させていただいて、リアルな付度のないいろいろなしかも現場の声を聞かせていただけたことは本当に宝でしたし、本当にお世話になりました。座っているだけですが、いい答申ができたと思います。9月4日に区長に責任を持ってお届けしますので、よろしくお願いします。皆さん、本当にありがとうございました。

#### ○事務局

本日は長時間にわたりご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。ちょうど1年前、第1回の審議会が始まりまして、1年にわたってお付き合いをいただき誠にありがとうございます。こちらですが、今日いただいたご意見については、加筆修正が必要なところについては事務局にて対応し、会長に最終的にはご確認をいただいて、案を取った上で内容の確定をいたします。確定した答申書については、先ほど会長からあった通り、会長より9月4日に区長にお渡ししていただきたいと考えています。その後、答申の内容を踏まえて、事務局で計画案をこれから策定していきます。パブリックコメントを行なって、令和7年度中には計画を完成させたいと考えています。計画の策定に関しては、審議会にご参加をいただいた委員の皆様にもご報告をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

足立区子ども計画審議会に1年の長きにわたりご尽力をいただきまして、誠にありがとうございました。それでは、これで終了となります。お忘れ物のないようにお気を付けてお帰りください。誠にありがとうございました。